

高校生 まちづくり スクールミーティング

～住みたい・住み続けたい『まち』
ってどんな『まち』？～



- 実施報告書 -

概要

日時・場所

令和4年10月18日(火) 午後4時から6時
愛知県立小牧南高等学校 会議室

参加者

小牧南高等学校の皆さん 13人

小牧市長 山下 史守朗

(コーディネーター)

小牧南高等学校 教諭 八橋 崇先生

主催

小牧市



キミと一緒に、育っていききたい。
Komaki

今日は小牧南高校でのスクールミーティングということで、皆さんお忙しい中、ご参加いただきましたこと、お礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

毎年、高校生や中学生の皆さんとまちづくりについてのまちづくりミーティングを開催してきました。参加をいただいてうれしく思います。

小牧南高校は、様々な活躍していますが、特に今年は写真部が大変活躍してくれたと聞いています。日本一の高校写真部を決める大会「写真甲子園 2022」の東海ブロック代表で、本戦でも優秀賞を受賞されたということで、市民としてもうれしく思うところであります。

優秀賞つながりで、実は今月、マニフェスト大賞という日本で一番大きい政策コンテストで、私が提唱したこれまでの取組について、今年はいくらまでで最多の 3,000 以上の応募があった中、首長の部で上位 5 人の優秀賞、写真部と同じ優秀賞を取りました。

小牧の色々な取組が評価されたということなので、私だけでなく、みんなと一緒にやっていることを、評価いただいたということでうれしく思います。

少し話が逸れましたが、この企画は、まちづくりに対して皆さんに興味・関心を持ってもらおう、小牧南高校がある小牧市の地域に関心を持ってもらおうということを目的としています。日本というのは海外と比較しても非常に幅広い広域行政やっていますから、ありとあらゆることに行政が絡んでいます。良くも悪くもそういうことになっています。例えば小中学校、幼稚園、保育園もそうです。あとは水道、火事になれば消防車、救急車、そして、病院も小牧市民病院がありますし、道路、川、様々なことに行政が関係していますが、皆さんがそういった中で生活していく中で、よりよい暮らし、そして、安心して暮らせる、また、地域で自分のまちに誇りや愛着が持てる、そんな住みよいまちをつくっていくということで、行政にお任せだけではなく、自分ごととしてぜひ関心を持って、そうしたことに参画をしていただければと思っていますので、今日はその一つのきっかけにいただけると大変ありがたいと思います。

最近では S D G s というものに、世界も日本も企業も市民団体も行政も取り組んでいます。国連の世界共通の目標ということで 17 のゴールがありますが、小牧もコミットして、これに向けて一緒になってやっています。

そうした中で内閣府が選定している S D G s 未来都市に、尾張地域では初めて、そして今唯一、小牧市が選定されていて、これも今、一生懸命取り組んでいます。

これは、小牧市のリサイクル率が 5 年連続で愛知県下第一位であり、環境に配慮した優しいまちだということ。それから、こども夢・チャレンジ

N O . 1 都市ということを宣言しているのですが、子どもを軸にして、世代を越えてつながるまちだということなどの提案が評価され、S D G s 未来都市に選定していただきました。小牧として、様々なことに取り組んでいます。一つの例として、ご紹介をさせていただきました。

小牧もこれから少しずつ人口が減っていく時代になってきます。日本全体がもうすごい勢いで減ってきますが、少しでもそれを緩やかにしていかなければいけないということで、9月30日に首相官邸で岸田総理にお会いして、我々から国に対して少子化対策の要望をしっかりとやってきました。小牧もほかのまちも減っていく中で、小牧に来て、住んでもらいたいというようなことにも取り組んでいます。どうしたら小牧が皆さんにとって、良いまちになるか、魅力的なまちになるか、選ばれるまちになるか、ということを常に我々考えています。ぜひ若い皆さんの知恵もお借りしたいなと思っています。

今日は硬くならず、とにかく軟らかい頭で色々なアイデアを出して、楽しみながらグループワークしていただき、我々はそれを参考に頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

皆さんが考える「住みたい・住み続けたいまち」とはどういった「まち」か考えよう（グループワーク1）

グループごとに「20代～30代」、「40代～50代」、「60代以上」の未来の自分を想像して、「住みたい・住み続けたいまち」を考えました。

＞ A グループ（20代～30代）

20代前半になると、大学に通ったり、一人暮らしを始めたりする人が出てきます。その時に、公共施設や移動手段がしっかりしているほうがいいと思いました。

その次に、その中で一番ピックアップしたいのは、家族と娯楽についてです。家族ができるので、子育てに関する施設だったり、20代前半などはまだ遊びたい時期だと思うので、娯楽施設だったり、30代後半になって趣味を見つけたりするための施設が欲しいなというように感じました。

＞ B グループ（40代～50代）

大まかに言うと、家族関係、ビジネス関係、自分時間関係。あとは健康やまちの発展などです。

家族関係で言うと、高齢出産であったり、逆に早く子どもを産んだ人が、子どもをさらに産んで、孫を連れて帰ってこられる、そういう安全なまちづくりや、介護も同時に始まったりするので、介護とか子育ての金銭的な支援が出るまちだと住みたいなと思うといった話が出ました。

ビジネス関係だと、色々チャレンジしやすいまち。起業とかってなかなか勇気がなかったり、お金がなかったりで、できないと思いますが、起業して、さらにそこで雇用、人がいっぱい集まって、お店も発展するし、人も雇える、という人が集まるまちだったり、自分時間だったら、趣味に費やす時間が大人になると増えると思うので、その辺のサポートも市のほうでやってもらえるまちに住みたいなという話になりました。

＞ C グループ（60代以上）

まず、60代以上というのは、仕事を続けられる方と退職される方がいて、今の時代は、65歳以上でも条件が変わったりしながら、仕事を続けることができます。転職したり、仕事を辞められた方は、セカンドライフとして自分の趣味のために講座を自分でやったり、健康のために公園とかで運動したりすると思います。それらを行うためには、どこかへ移動して行うの

で、交通の便が必要かなと思います。

今だと電車とかバスが少なかったり、なかなか距離が遠いというのがあるので、無料タクシーをやったり、バスの本数を増やしていただけたら、大分高齢者の方も移動がしやすいのではないかなと思います。

▶市長コメント

まず A グループですが、家族と娯楽にスポットを当てて、働きながら何か趣味を見つけるといった話をしていましたが、働き始めるとなかなか忙しいです。やっぱり趣味は学生のうちから見つけたほうがいいですよ。学生のうちから。市長としてのコメントとは少し違いますが、30代とかから始めようとしても難しいので、若い時から一生の趣味を持つべきだと思います。健康づくりのためにも、何かスポーツとか、これも若いうちから見つけておいたほうがいいなというのはつくづく思っています。

ということで、若い人たちに、住み続けたいまちというのは、実は本当に難しくて、就職活動などは、土地が先か職場が先かといったら、職場から入る人が多いです。皆さんも多分、その年代になったら分かると思いますが、大学などを出て、じゃあどうしようかといった時に、どこの会社に入ろうか、どういう仕事をしようか、というところから就職先を決めて、そこでおのずと東京だったり、大阪だったり、名古屋だったり、職場の近くに住もうと考える人が多いので、この年代の方に小牧に住んでもらおうというのは難しいです。

ただ、名古屋ぐらいの距離であつたら、小牧は住みやすいから小牧から通おうとか、名古屋に会社はあるけれど、結婚して子育ては小牧でとか考えてもらえるかもしれません。逆に、働く場が小牧にあるので、小牧に来てくれる人もいます。そういう人たちに住んでもらえるようにもしていきたいです。

だから、隣町より小牧のほうが子育て環境がいいと絶対の自信がありますので、小牧近辺ならどこでもいいよという方に、子育てするなら小牧だと、そういうところで選んでもらえるといいのかなと思いました。

小牧は唯一、この尾張の中で市としてはベッドタウンではありません。昼の人口の方が多いというのは小牧だけで、働きに来るまちなので、ベースはあるのかなと思います。ぜひまた選ばれるまちに向けてアイデアをください。

あとは、若いから娯楽も必要だというところは、そのとおりだと思います。

次に B グループですが、家を建てる時に支援してほしいとか、家族についてなど、色々なことが書いてあります。チャレンジしやすいまちもあ

りますが、まさに「夢・チャレンジ始まりの地」を小牧は標榜しているので、そうありたいと思っています。

この40代、50代は子育てと介護と自分の仕事と、一番大変な時期です。なかなか趣味の時間は持てないと思いますが、意見にもあるように、自分の時間の充実というのは、本当に大切だと思います。

最近小牧は図書館を建てました。職場と家以外に、自分の時間を過ごす場所が大切だということで、サードプレイスという言い方をしますが、第三の居場所を求めてくる人もたくさんいます。カフェなどもそうですね。最近、本当にカフェを求める声が多いです。

最後にCグループですが、ここが一番難しいと思います。皆さんからすると想像がしにくい60代以降のことです。どんどん平均寿命上がっているので、多分60歳というと、まだ若いのですよね。

説明あったとおり、仕事、セカンドライフ。何をするにも、移動するときに交通手段が大事だというのはそのとおりです。高齢社会の中で、健康でなければいけないですが、実は小牧も平均寿命と健康寿命の差がかなりあります。健康で長生きすることは、自身にとっても大事であり、家族にも求められることだと思います。介護とかが必要になるより、健康で長生きするというのが、非常に社会貢献になりますので、ぜひそれを皆さんも目指してほしいです。

そのためには、やはり出不精になってはいけませんね。家に引き籠もっている方、独り暮らしの方も増えています。家族に先立たれて一人で暮らしている方もどんどん増えています。一人で暮らしていると、外に出るのが面倒くさいとなってしまう人が多いですが、健康のためには出なければいけません。そうすると交通手段も、車に乗れなくなれば、バスや電車などが必要だと思います。

小牧、実は今どんどんバスを増やしてしまして、私が就任した12年前は8コースしか走ってなかったですが、今は23コースです。1時間に1本、23コースというのは、小牧は全国で一番市営のバス網が充実していると自負しています。

また次に期待したいと思いますので、よろしくお願いします。

「小牧の現状」を考えながら、グループワーク①で出た意見を小牧で実現し、「住み続けたいまち」にするためのアイデアを考えました。

考えたアイデアは、「駅のようなバス停を作る」です。子育て支援をしても、子どもの数がいないと、支援の効果が薄れてくると思います。子どもの母数を増やすとなったら、家族がそこで必要になるから、小牧市で家を建てたりするという人を、もう少し増やしたいです。そのためには、小牧市で仕事をする人を増やしたいとなるので、名古屋市に行って仕事をするとか、駅を使って仕事をするという人もいますし、娯楽施設をつくったことに対しても駅は必要になってくるので、駅に行きやすいバス停をつくることによって、色々な世代が遊べたりするという循環が起きるので、それで経済が回ってくるのではないかと思います。



○市長コメント

色々考えてくれました。最終的に人口を増やすのはどうすればいいのか、というところにきたのかなと、今の説明を聞いて思いました。若い世代、20代、30代は遊ぶところが欲しいと思います。ショッピングや娯楽、遊ぶところが欲しいという声を私も聞きます。遊びに行くのに名古屋へ行ってしまふから難しいですね。

でも、小牧にしかないものをつくっていかうということを思って、色々頑張っています。小牧山も歴史があるし、図書館も造りました。図書館も非常に人気で、少しずつ若い人たちが来たいというところを今頑張っています。

駅の話ですが、駅というより鉄道は市長といえども敷けないので、バスをいっぱい走らせていて、アクセスをよくするという意味では、小牧は努力しています。便利とはいいませんが、基本的には車に乗らなくても行きたいところには行けるというところは、実現はしていると思います。

小牧の若い人たちは車を使うので、小牧は交通が便利だという人が多いですが、飲みに行く人は名古屋駅に2回乗り換えなければいけないという問題があります。だから、名古屋に行きたいという人にとっては、小牧が少し不便であるのは事実です。ただ、桃花台は中央自動車道というのが通っていて、高速のバス停があります。そこから乗ると高速で栄や名古屋駅まで直通が走っています。なので、まさに駅のようなバス停というのは桃花台にあります。

子育てがしやすいまち、仕事があつて、住んでもらって、家族をつくって子育てして増やしていくというのは、まさに小牧も目指しているところでは。これは全体としていいことを書いてくれました。

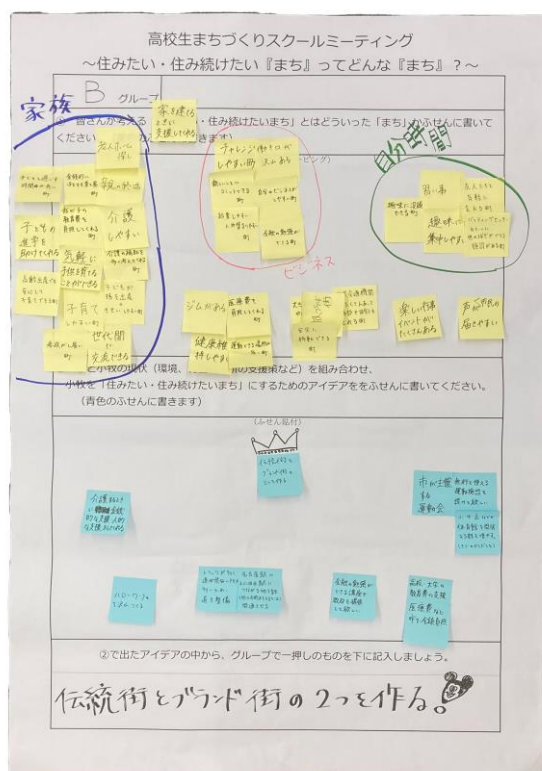
➤ B グループ（40代～50代）

「伝統街とブランド街の2つをつくる」というのを一押しのものにしました。

ブランド街は、40代、50代はお金が多まってくると考えたので、名古屋とかにあります。小牧にもブランド街をつくったら、近くに住んでいる人たちが「小牧でいいか」となって、小牧にもたくさん来てくれると思ったからです。

伝統街は、せっかく立派なお城があるので、もっと伝統をみんなに発信していくようなまちであればいいかなと思って、伝統街とブランド街という2つにしました。

最近、名鉄とかで「歩け歩け大会」みたいなものをやっていて、伝統街とかをもっとつくっていけば、そういうのも活用して楽しいまちというイメージが定着するのではないかなと思ったので、この2つにしました。



○市長コメント

きっと願望も入っていて、こういう形になったと思います。

小牧は名古屋というまちが隣にあるので、どうしても名古屋の求心力が強く、色々なものが集積しています。買い物をするにも、3軒同じようなものが買い回りできないと、なかなかそこに行かないということも言われているので、1店舗あってもだめで集積が必要です。古着だったら古着のまちとか、そういうことでもいいかと思います。ブランド街というのは、来てもらおうと誘致しても、市長でも難しいという感じはします。ただ、みんなが来たいまちをつくるということは非常に重要なことです。

40代、50代は子育てもお金がかかるし、自分の親の介護もそろそろのしかかってくるような世代になってきます。その辺で自分の老後の貯金ができないなという三重の不安があり、これはよくない話です。9月30日に私も岸田首相にお会いしてきて、若手の市長会として提言してきましたが、少子化対策のため、5人いても、10人いても子育てにはお金がかからないようにしなければいけないと伝えました。学校の費用もかからないようにするか、せめて経済的な負担は軽減して、3人目とか、経済的理由で子どもを諦めるということのないようにしてほしいということを書いてき

ました。ちょっと話がそれましたが、お金がたまっている世代かどうかは分かりませんが、そうあってほしいなと思います。

伝統街について、歩け歩けという話がありましたが、これは本当にそのとおりで、小牧も今歩いて楽しめるまちということを中心市街地のコンセプトにしています。まだまだこれからですが、もう少し座れるところを置いたりして、歩いて楽しめて、そういう中で、小牧駅から小牧山、まずはその辺りをにぎやかにしていきたいです。屋根神様があったり、古い街道の石の表札があったり、歴史的な見どころがいっぱいあるので、そういったところをPRしながら外からも来てもらえるまちにしたいと一生懸命やっています。最近はキッチンカーを市役所にも置いているし、駅前や四季の森などにたくさん出てもらおうようにしたり、そんなことを一生懸命やっています。

ブランド街はなかなか難しいかも知れませんが、皆さんに楽しんでもらえる、歩いて回ってもらえるようなまちづくりをしていきたいと思っています。色々なアイデアをほかにも出してもらいましたので、参考にさせていただきます。

> C グループ（60代以上）

セカンドライフをもとに、あるコンセプトを考えました。「超人への道、心と体をムキムキに」です。

まず、心ですが、おじいちゃんやおばあちゃんは、それだけ長く生きられているので、人生の上で超人かなと考えて、このコンセプトを考えました。

まず、心をムキムキにということで、高齢者になると認知症になったり、色々あると思うので、認知症防止の講座であったり、同じ世代のコミュニケーション場である老人会を開いていただければ、とてもいいのではないかなと思います。これで心がムキムキになれます。

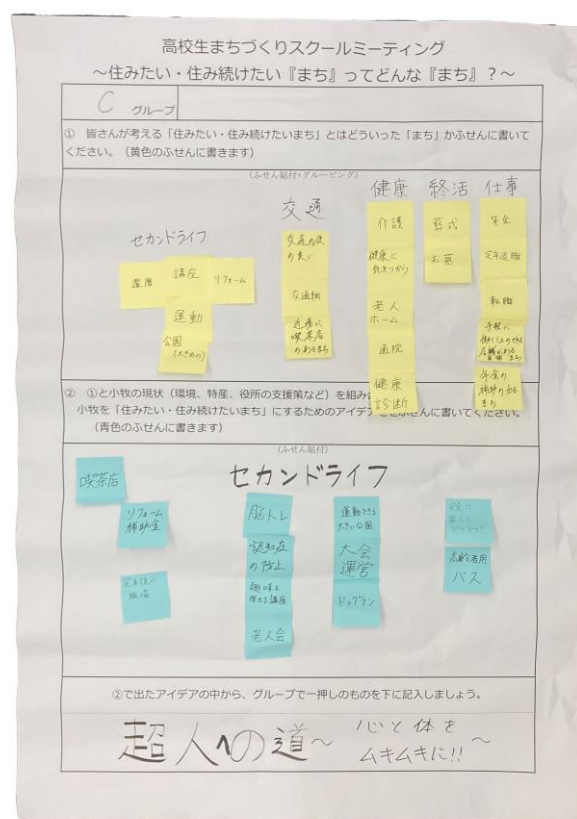
次に体をムキムキにということで、公園でおじいちゃんがゴルフをしているのを見たことがあると思いますが、そういうのを実際に同世代の方で大会として市の方が運営してもらえれば大分盛り上がると思うし、ほかの若い世代とか、お父さん、お母さんの世代も見に来て応援とかあったりすると思うので、地域の活性化にもつながるし、いいかなと思います。

あと、1人だと悲しいのでペットが必要だと思うので、公園の近くにドッグランを置けば犬を走らせて休憩してみたいな感じで、残りの人生を楽しめるかなと思います。これで体ムキムキになれます。

○市長コメント

おもしろかったです。でも、真面目にそのとおりだと思います。先ほども言いましたが、今は超高齢社会です。寿命は延びているけれど、健康寿命を延ばしていくということが本当に大きな課題になっていて、国全体の課題です。そうした中で、心も体も鍛えてもらって、健康で長生きしてもらえると、社会全体も介護費用など、色々な部分で助かるし、自分にとっても家族にとっても、それが幸せということで、健康で長生きするためにどうするかを社会全体でも考えなければいけないと思っています。

小牧もそういう方向で色々なことをやっています。認知症予防のための講座や、啓発もやっているし、老人会という話もありましたが、高齢者サロンで独り暮らしの方をボランティアの方がお誘いをして、地域の会館な



どで一緒に食事会をしたり、お話をしたり、頭を使ってもらったり、体操などをして健康づくりをしたり、地域の皆さんと一緒に取り組んでいます。

老人クラブは、残念なことです。10年前は小牧市内に町内会が129区あり、その中で90を超える老人クラブがありましたが、この10年間で大分減りまして60ちょっとになってしまいました。高齢者はどんどん増えていて、高齢化率も上がっていて、小牧の高齢者の数は増えているけれども、老人クラブは減っています。会長も大変でなり手がいないです。自治会の区長もなり手がいないです。こういうのを支えていくに、行政で全部はできませんので、地域の皆さん方の助けが必要です。高齢者サロンはボランティアの方がやってくれて、一生懸命やっているの、今お話していただいたようなことをするには、地域で協力いただけるボランティアさんといった方々を、我々は育てなければいけないと考えています。

実は小牧では、生涯学習の講座などで人材育成をやりながら、定年した元気な人が、セカンドライフとしてお手伝いだとか、地域の活動を担ってもらっています。お互いさまという精神で、年を取ってお世話にならないといけないなくなった人たちを支えていくという、ある意味順送りの健康と支え合いの循環のまちということ、1つのテーマにして小牧のまちづくりをやっているの、皆さんが考えてくれていることも、我々の目指しているところと一緒にだなと思いました。

広報こまきに『超人』と書いてもいいかもしれません。高齢者の皆さん、心と体を鍛えて、小牧南高校の皆さんが「超人を目指しましょう」と言っていましたというのを使わせてもらいたいなと思います。僕は非常に気に入りました。小牧市もこんな方向で頑張っていきたいと思います。

市長講評

今日少しでもまちづくりに関心を持ってくれたらありがたいし、まちのことをローカルな部分で、より良いまち、住みよいまちをつくっていくのも大事なことだと思っていますけれども、国にも関心を持ってくれるといいなと思います。

行政だけでもできないので、高齢者の健康を、全て税金で支えるというのは無理なので、助け合いというのは絶対必要になってきます。だから少しでも地域で、みんなでつながって支え合っていきたいです。電気が変えられないとか、模様替えしたいけど、家具がとても動かせないとか、年を取るとそうなるので、ちょっと困ったときに隣近所で助け合えるようなまちづくりもしていかなければいけないです。ボランティアや市民活動は非常に重要なので、少し関心を持ってもらって、皆さん自分のことをきちんとやって、少し余裕があれば、地域の活動などにも参加して、友達をつくって、仕事だけではなく、趣味もあって、地域との関わりを持ってください。先ほどセカンドライフの話もありましたが、仕事を一生懸命やって、65歳になったらセカンドライフをといても、そんなにすぐに切り替えることはできません。友達も知り合いもない中で、いきなり地域に入ろうと思っても入れないので、仕事を一生懸命やりながら趣味も頑張って、もちろん家族も一緒に幸せになって、地域活動とか色々な活動をやっていく人生のほうが充実した良い人生になると思います。そんなことを頭の片隅に置きながら、これから進路を考えて頑張っていただけたらと思います。

小牧市は皆さんを応援しています。留学や、色々な夢・チャレンジ、大学進学も含めて小牧でできる経済的な支援を色々やっています。様々な補助金・助成金もあるので、活用して頑張っていただけたらと思います。

今日の貴重な御意見をしっかり持って帰って参考にさせていただきます。本当にありがとうございました。

ご参加いただいた生徒のみなさん

青木 脩一さん	岩井 陽香さん	大嶋 優愛さん
大西 翔太さん	小倉 悠加さん	角田 知穂さん
黒木 蓮さん	小角 香穂さん	新坂 健さん
竹川 心望さん	藤田 耀斗さん	本多 晴輝さん
山下 風我さん		